

『信州型ユニバーサルツーリズム』 の創造と展開

ユニバーサルツーリズムで
信州から社会を変える！

平成30年7月10日
長野県観光部

ユニバーサルツーリズムとは

観光庁は「すべての人が楽しめるよう創られた旅行であり、高齡や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行の提供」と定義しています。

上記を詳しく解説しますと、国籍(言葉の通じない外国人)、年齢(小さなお子様やご高齡者)、ハンディ(障がいのある方・妊婦さん・ベビーカー利用)などに関わらず、気兼ねなく全ての人が楽しめるように考えられた旅行です。

UTの4つの大きなカテゴリ

シニア

ハードな工程ではなく
ゆったりした工程で観
光を楽しみたい高齡の
方々

ハンディキャップ

身体的制限(車いす
等)・食事制限など何
らかのハンディがある
方々

ベビー

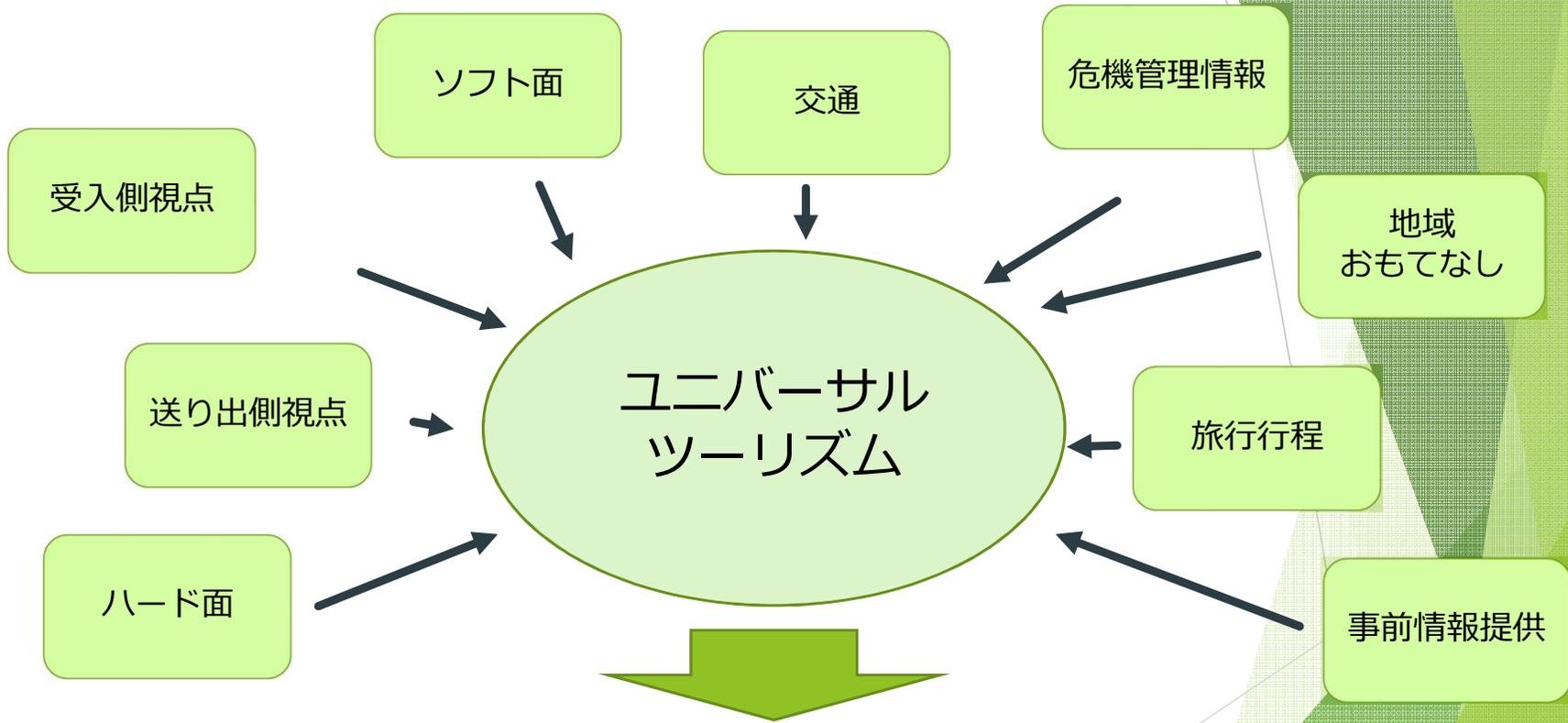
妊婦さんを含め、小さ
なお子さんやベビー
カーを利用した移動等
で一般観光客と共に
行動するのが難しい方々

インバウンド

外国からお越して、言
葉の通じない方や、文
化的に食・行動に制限
等がある方々

【参考：大阪ユニバーサルツーリズムセンターHP】

旅行プロセスに合わせた配慮 (様々な主体の役割)



様々な観点からの配慮が必要

長野県が目指すユニバーサルツーリズムの方向性

◆しあわせ信州創造プラン2.0 ～学びと自治の力で拓く新時代～

3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり（観光地域としての基盤づくり）

- アウトドア、健康長寿、ユニバーサル、学びなど本県の強みを活かしたテーマや、祭りや花火、伝統文化など地域の特色ある文化を取り込んだ観光誘客を推進し、世界から選ばれるブランドを形成・強化
- 障がい児（者）にやさしいスキー学習旅行の受け入れや国際スポーツ大会の開催を通じた地域ブランド化により、県外からの学習旅行やスポーツ合宿の誘致を促進
- 外国人や障がい者など多様な利用者にも対応した登山道やトイレ整備を進めるとともに、自然保護センターを活用した情報提供など自然保護を意識した質の高い山岳高原地域づくりを推進
- 【諏訪】トラベルサポーターを活用したユニバーサルツーリズムのモデルコース作成を支援します。
- 【北ア】高齢者や障がい者など、誰もが安心して快適に旅行できる観光地域づくりに向けた受入体制整備を観光団体等とともに検討し、その取り組みを支援します。

◆信州の観光新時代を拓く 長野県観光戦略2018

5 施策の展開方向 ～しあわせ観光地域づくりを実現する3つの戦略～

【第Ⅱ章 観光地域としての基盤づくり】 （戦術4）信州の強みを最大限発揮する観光ブランドの形成・確立

- 障がい者や高齢者をはじめ誰もが信州の魅力を楽しめるモデルコースの提案や、デュアルスキーやアウトドア用車いすの普及促進により、「信州型ユニバーサルツーリズム」を創造します。

◆長野県障がい者プラン2018

第4章 分野別施策の方向 4 社会参加の促進

- ユニバーサルツーリズムの取組支援や情報発信

- ・ 誰もが楽しめる観光地域づくりを進めます。
- ・ ネットワークづくりによる県内推進団体の連携強化と先進事例を相互に学ぶ機会を作ります。
- ・ ユニバーサルツーリズムツアーや観光施設、ホテル旅館等のバリアフリー情報の提供を図ります。

長野県におけるユニバーサルツーリズムの背景

- ◆ 県では、観光戦略2018の中で、
**【そこに暮らす人も訪れる人も「しあわせ」を感じられる
世界水準の山岳高原リゾート】**を目指し、
地域の観光資源の磨き上げを実施中。
- ◆ 旅行者の中心が個人客となり、価値観の多様性が進む中で、今後増加する
高齢化やインバウンド客、これまでなかなか旅に出かけることのできなかつた
ハンディキャップをお持ちの方や妊婦さんや小さなお子様連れなど、
様々なお客様への受入環境の対応が求められている。
- ◆ **ユニバーサルツーリズムは、その旅の行程において多種多様な対応が必要
となるため、1主体がすべての対応をする事は困難である。**
- ◆ 特に、**長野県のような山岳高原観光地では、全てをハード整備で対応すること
は非現実的。**
- ◆ **そのため、山岳高原観光地、信州・長野県では、県民が相互に連動し、
温かい心で受け入れる、ユニバーサルツーリズムの対応が求められる。**

山も谷も乗り越える

『信州型ユニバーサルツーリズム』の形成

信州から、ユニバーサルツーリズムで社会を変える！

都会型バリアフリーのようなハード偏重でない、山岳高原・信州ならではのユニバーサルツーリズムの推進

『信州型ユニバーサルツーリズム』

＝

県民の温かいサポートとおもてなしの心で

『山も谷も乗り越え・学ぶ』ユニバーサルツーリズム

「『信州型』ユニバーサルツーリズム」の3大特徴

- ① **地域でのサポート体制の充実** ⇒ 旅行をサポートする個人・団体が揃っている
- ② **サポート機器の充実** ⇒ JINRIKI、HIPPOCampなどサポート機器の充実
- ③ **信州ならではのバリア** ⇒ 通常はバリアであるはずの山や自然は、
逆に長野県の観光資源である

『信州型ユニバーサルツーリズム』



県民の温かいサポートとおもてなしの心で

『山も谷も乗り越え・学ぶ』ユニバーサルツーリズム



そのために



ユニバーサルツーリズムで考え方を変える!

- 「困ったときは声をお掛けください」との掲示や、将来的には、観光施設チケット優先レーンの設置など、身近な取り組みから、意識を変える。
一つひとつの自発的な取り組みを積み上げていくことによって、観光地のみならず、障がいのある方々と共存する地域全体の取り組みとして波及させる。

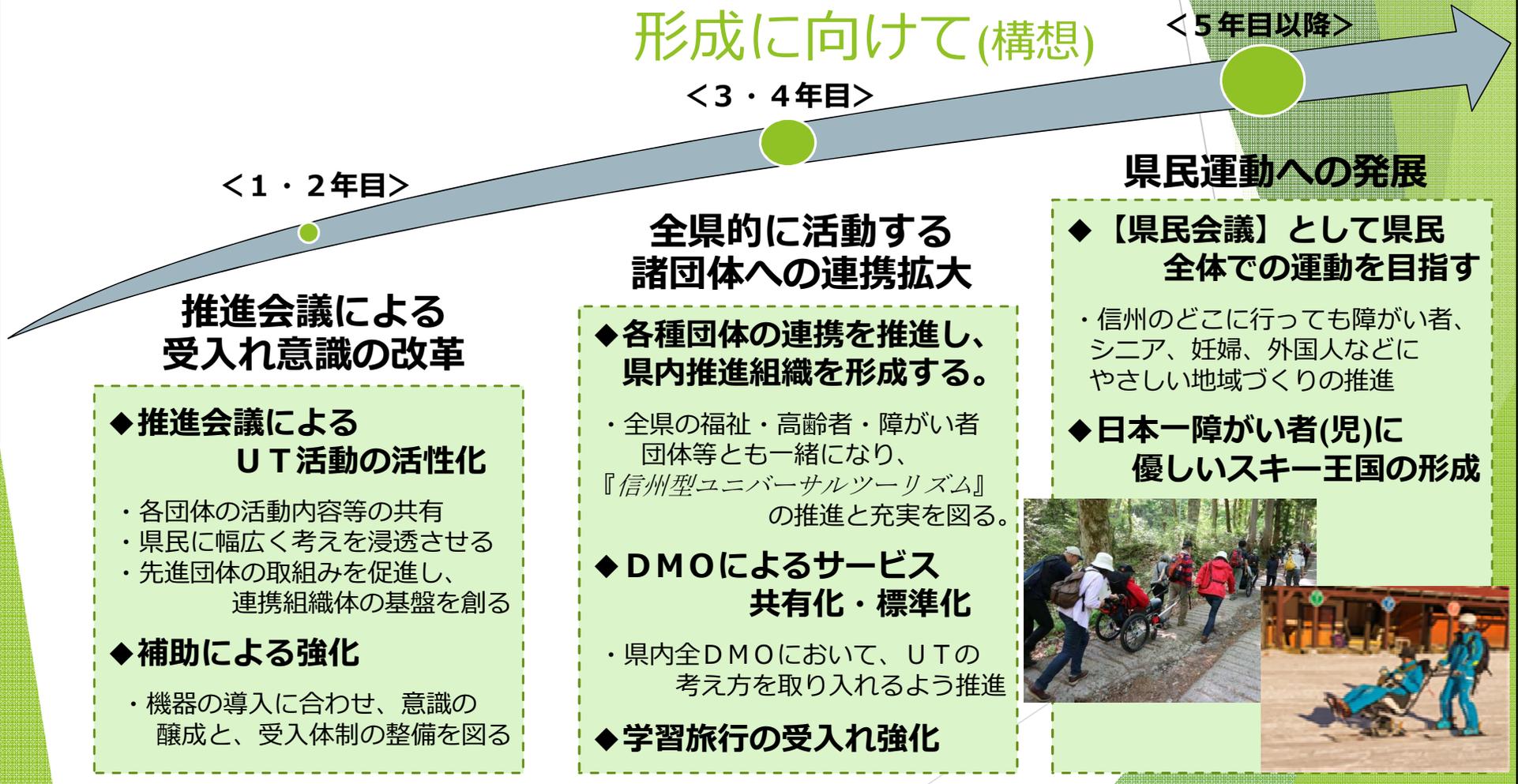
出来る事からまず始める

ユニバーサルツーリズムからシステムを変える!

- モデルコースの造成等により、県内でUTに取り組む団体間の連携を深めると共に、利用者目線に立ったコースやサービスのあり方、発信方策やコース作成技法等を広める。
- 機器の導入を通じて、機器の使用にとどまらないUT環境の醸成や体制整備を各地域に根付かせると共に、周辺地域への知識や活動の普及啓発を実施することで、社会システムの中にユニバーサルの視点を強く根付かせて行く。

UTを標準化させる

「信州型ユニバーサルツーリズム」 形成に向けて(構想)



平成30年度信州ユニバーサルツーリズム推進事業

考え方を変える!

◆信州ユニバーサルツーリズム推進会議(計3回)

推進会議において広く関係者への周知を図り、
県内関係者の考え方を共有する

○第1回推進会議

テーマ：**ユニバーサルツーリズムを知る**

内容：これからの信州UTの現状とこれから、UTとは

目的：「信州型ユニバーサルツーリズム」を進めるに
あたり、それぞれの活動や想いを共有し、今後の
連携や活動の拡大について方向性を探るとともに、
県内受入体制の拡大を図る

○第2回推進会議

10月ごろを目途に、ユニバーサルフィールドでの
体験・実例を中心に実施

○第3回

2月ごろを目途に、冬の実践、
今年度の実践事例(実績)の共有

システムを変える!

◆アウトドア用車いす補助事業(夏用4台、冬用2台)

機器の補助を通じて、地域のシステムを変える

補助事業と共に行う環境整備(例)

【アウトドア車いす利用環境の普及】

- ・パイロットの養成
- ・障がい児を含む修学旅行誘致の受入れ
- ・周辺の観光地に対して、知識の普及を実施
- ・他の観光地への貸出

【ユニバーサルツーリズム環境改善・情報発信】

- ・受け入れ態勢整備(トイレ、スロープ、スタッフ人材)
- ・学習旅行の積極的誘致
- ・UT対応観光地としての情報発信・PR
- ・地域住民等へのUT教育

◆モデルルート造成(設定ルート:4コース)

信州大学と連携し、モデルルートを形成

地域トラベルサター、ユニバーサルコンシェルジュ[信州大学]等の
地域での活動の場を造成し、新たなシステムを創る

UTの考えを
地域に根付かせる

ユニバーサルツーリズム連携事業（県関係）

民間団体の活動を連動していきたい！



【専門人材育成】

人材育成(ユニバーサルコンシェルジュ)

移動・宿泊・飲食・医療等のトータルコーディネートを担当する人材育成

(信州大学様, 観光誘客課, 観光機構, 白馬村等)

【情報整備】

広域バリアフリーマップ整備

県内広域バリアフリー施設マップの整備、アプリでの発信を検討

(障がい者支援課)

【交通整備】

バス・タクシーのUD化

ユニバーサルデザインタクシー・低床バス等への導入支援、及びユニバーサルドライバーの育成支援を検討

(交通政策課)

【地域受入環境】

あいサポート運動・ヘルプマーク等

「障がいを知り、共に生きる」地域を創る。ヘルプマークの認知度向上

(障がい者支援課)



『信州型』 ユニバーサルツーリズム

【誘致商談会】

旅行商品・学習旅行商談会

各種商談会において県内ユニバーサルツアーを旅行業者に発信・誘致

(長野県観光機構, 観光誘客課)

【自然公園環境整備】

自然公園内遊歩道・トイレ整備

自然公園内の遊歩道等の整備による段差解消およびトイレ整備事業

(自然保護課)



身の回りで出来ることから始めてみましょう。

県民の皆さん

- 障がい者やお年寄り、妊婦の方など、
困っている方が居たら、お声かけを。
- 自発的に「お先にどうぞ！」と優先させてあげる意識を。
- 旅行者だけでなく、全ての人にやさしい長野県へ。



など

観光施設の皆さん

- 1施設で抱え込まず、サポーター制度の活用やレンタル商品の活用などによる受入れを。
- 「段差」や「トイレ」、「間口の広さ」などバリアインフォメーションの提供を。
- 優先座席の設置や、窓口などでの優先レーンの設置など、皆さんのまごころからの創意工夫を。

ハンディをお持ちの皆さん

- あきらめずに無理のない範囲で旅行にチャレンジを。
- まずは、私たちに相談してみてください。
- 当事者の意見を観光に反映させていただき、一緒にユニバーサルフィールドの造成を。

ユニバーサルツーリズムで
信州から”より良い共生社会”を
発信して行きましょう！

▶ ご清聴ありがとうございました。